

総会議事次第

2024/06/20

1 開会

15:30-15:35 会長挨拶

2 議案

15:35-15:40 (1) 新規会員の報告について (資料 1)

15:40-16:00 (2) 2023 年度活動報告について

第 1 号議案 2023 年度活動報告・決算報告・会計監査報告の承認
(資料 2、資料 3、資料 4)

16:00-16:20 (3) 2024 年度の定期総会の議案について

第 2 号議案 役員を選出 (資料 5)

第 3 号議案 幹事を選出 (資料 6)

第 4 号議案 役職特別会員について (資料 7)

第 5 号議案 2024 年度事業計画 (案) (資料 8)

第 6 号議案 2024 年度収支計画 (案) (資料 9)

3 閉会

配布資料

- 資料 1 超臨場感コミュニケーション産学官フォーラム会員一覧
- 資料 2 超臨場感コミュニケーション産学官フォーラム 2023 年度 活動報告
- 資料 3 超臨場感コミュニケーション産学官フォーラム 2023 年度 収支実績
- 資料 4 監査報告書
- 資料 5 超臨場感コミュニケーション産学官フォーラム役員候補
- 資料 6 超臨場感コミュニケーション産学官フォーラム幹事候補
- 資料 7 超臨場感コミュニケーション産学官フォーラム役職特別会員
- 資料 8 超臨場感コミュニケーション産学官フォーラム 2024 年度 事業計画案
- 資料 9 超臨場感コミュニケーション産学官フォーラム 2024 年度 収支計画案

超臨場感コミュニケーション産学官フォーラム
 (五十音順 敬称略)

【正会員】

朝日放送グループホールディングス(株)	大日本印刷(株)
アストロデザイン(株)	(株)竹中工務店
アルプスアルパイン(株)	(株)TBSテレビ
池上通信機(株)	(株)デンソー
(一財)NHK財団	TOPPANデジタル(株)
NTTテクノクロス(株)	中日本高速道路(株)
(株)NTTドコモ	(株)ニコン
関西テレビ放送(株)	(株)日建設計
キヤノン(株)	日本テレビ放送網(株)
近畿日本鉄道(株)	日本電気(株)
コニカミノルタ(株)	日本電信電話(株)
(株)シーエーシー	日本放送協会
(株)JVCケンウッド	(株)博報堂
国立研究開発法人情報通信研究機構	(株)パリティ・イノベーションズ
(株)SUBARU	(株)日立製作所
セイコーエプソン(株)	三菱電機(株)
ソニーグループ(株)	ヤマハ(株)
ソニーPCL(株)	レイ・フロンティア(株)
(株)ソリッドレイ研究所	

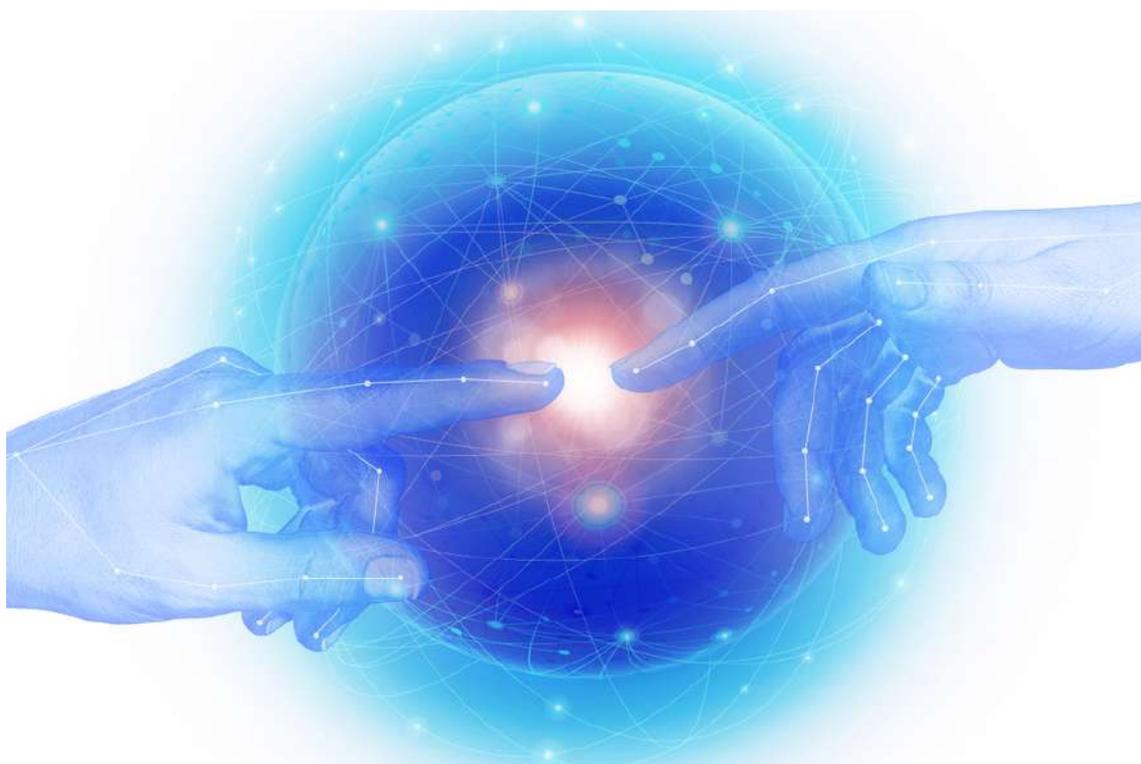
計 37 会員

超臨場感コミュニケーション産学官フォーラム
(五十音順 敬称略)

【特別会員】

相澤 清晴	東京大学	嶋田 総太郎	明治大学
青木 茂明	金沢工業大学	菅原 育子	東京大学
青木 徹	静岡大学	杉森 順子	日本工業大学
青山 友紀	慶應義塾大学	鈴木 陽一	東北大学
安藤 彰男	富山大学	陶山 史朗	徳島大学大学院
安藤 昌彦	名古屋大学医学部附属病院	高木 康博	東京農工大学大学院
飯田 一博	千葉工業大学	高田 英明	長崎大学
池内 克史	東京大学大学院	高根 昭一	秋田県立大学
池井 寧	首都大学東京	田川 和義	富山県立大学
石尾 広武	福山市立大学	武田 一哉	名古屋大学大学院
伊勢 史郎	東京電機大学	館 暉	慶應義塾大学大学院
伊藤 研一郎	東京大学	伊達 宗和	徳島文理大学
稲見 昌彦	東京大学	田中 弘美	立命館大学
井上 雅弘	名古屋工業大学	田中 文英	筑波大学
伊福部 達	東京大学	谷川 智洋	東京大学
岩谷 幸雄	東北学院大学	谷本 正幸	名古屋大学名誉教授
上野 佳奈子	明治大学	為ヶ谷 秀一	女子美術大学
氏家 弘裕	東京情報デザイン専門職大学	菅木 禎史	千葉工業大学
宇田 紀之	名古屋産業大学	土屋 隆生	同志社大学
榎並 和雅	東京工業大学	東海 彰吾	福井大学
江原 康生	大阪大学	苗村 健	東京大学
圓道 知博	長岡技術科学大学	中尾 恵	京都大学
大井 翔	大阪工業大学	中嶋 正之	東京工業大学名誉教授
大賀 寿郎	芝浦工業大学名誉教授	鳴海 拓志	東京大学大学院
大串 健吾	京都市立芸術大学	西浦 敬信	立命館大学
大久保 寛	首都大学東京	西岡 貞一	筑波大学
大田 友一	筑波大学大学院	西田 泰章	慶應大学大学院
大谷 智子	大阪芸術大学	西田 豊明	京都大学
大谷 真	京都大学	西野 隆典	名城大学
大山 永昭	東京工業大学	西村 邦裕	東京大学大学院
小木 哲朗	慶應義塾大学	包 躍	東京都市大学
尾久土 正己	和歌山大学	萩原 悟一	九州産業大学
小口 喜美夫	成蹊大学	橋田 朋子	早稲田大学
小澤 賢司	山梨大学大学院	畑田 豊彦	東京工芸大学名誉教授
尾本 章	九州大学	羽田 陽一	電気通信大学
小山田 耕二	京都大学	馬場雪乃	京都大学
掛谷 英紀	筑波大学	原島 博	東京大学大学院
梶谷 哲也	文化学園大学	半田 知也	北里大学
春日 正男	作新学院大学	久武 信太郎	大阪大学大学院
片岡 章俊	龍谷大学	久武雄三	東京農工大学
金子 晋丈	慶應義塾大学	日根 恭子	豊橋技術科学大学
加納 裕	ものづくり大学	檜山 敦	東京大学大学院
亀川 徹	東京藝術大学	廣瀬 通孝	東京大学大学院
河合 隆史	早稲田大学大学院	藤井 俊彰	名古屋大学大学院
河口 洋一郎	東京大学大学院	藤井 哲郎	東京都市大学
河原 一彦	九州大学	藤代 一成	慶應義塾大学
川村 孝	京都大学	藤田 欣也	東京農工大学
神原 誠之	奈良先端科学技術大学院大学	保坂 憲一	東海大学
岸野 文郎	関西学院大学	堀 謙太	群馬県立県民健康科学大学
木全 英明	工学院大学 新規会員	堀越 力	湘南工科大学
金 相賢	早稲田大学	本郷 哲	仙台高等専門学校
木村 敏幸	東北学院大学	本田 捷夫	千葉大学
久木元 伸如	京都大学 学際融合教育研究推進センター	本多 学	国立精神・神経センター
葛岡 英明	筑波大学	間瀬 健二	名古屋大学
久保田 彰	中央大学	松丸 隆文	早稲田大学大学院
桑 直人	京大病院医療情報部	水科 晴樹	徳島大学
黒田 知宏	京都大学	美濃 尊彦	京都大学
桑山 哲郎	千葉大学	三村 秀典	静岡大学
小池 崇文	法政大学	三宅 美博	東京工業大学大学院
小泉 直也	電気通信大学	三好 正人	金沢大学
輿水 大和	中京大学	盛川 浩志	青山学院大学
小林 幸夫	小山工業高等専門学校	森山 剛	東京工芸大学
小山 翔一	国立情報学研究所	矢入 聡	仙台高等専門学校
近藤 武夫	東京大学	八木 康史	大阪大学
近藤 亮太	東京大学	安田 浩	東京電機大学
斎藤 英雄	慶應義塾大学	山口 雅浩	東京工業大学
酒澤茂之	大阪工業大学	山崎 俊彦	東京大学大学院
坂本 修一	東北大学	山崎 達也	新潟大学
嵯峨山 茂樹	明治大学	山崎 芳男	早稲田大学大学院
櫻井 広幸	立正大学	山田 真司	金沢工業大学
佐藤 甲癸	湘南工科大学	山本 健詞	徳島大学 新規会員
佐藤 隆夫	立命館大学	吉川 浩	日本大学
佐藤 誠	東京工業大学	吉田 孝博	東京理科大学
佐藤 正人	東京藝術大学	脇田 航	広島市立大学
塩沢 隆広	香川高等専門学校	渡邊 克巳	早稲田大学
柴田 隆史	東京福祉大学	渡邊 祐子	東京電機大学
柴田 義孝	岩手県立大学	渡辺 好章	同志社大学

2023 年度 URCF 活動報告書



2024 年 3 月

超臨場感コミュニケーション産学官フォーラム





組織構成

企画推進委員会

1. 企画推進委員会の 2023 年度活動報告

2016 年度から東京大学の廣瀬通孝教授を会長に迎え、従来の映像や音響で「リアリティ・驚きを創発」する臨場感技術だけでなく、「心地よさ・楽しさの創発」「コミュニケーションの創発」を実現する「快適性」「インタラクション」技術も新たに取り入れて、新生 URCF として活動を進めてきている（下図参照）。2023 年度は、新型コロナの感染症法上の位置付けが季節性インフルエンザと同等の 5 類に移行したため、URCF においても実空間での活動を再開した。特に、URCF シンポジウム 2023 を「XR×生成 AI が切り拓く新たな地平：未来社会の創造と変革」をテーマにハイブリッド形式で開催するとともに、国際会議(3DSA)をリアルな場で開催し、関連技術の最新動向の把握・共有などを行った。

超臨場感コミュニケーション産学官フォーラム

URCF (Ultra-Realistic Communication Forum)

～人の心に快適・感動・活力を生み出す感性の創発技術～



新生 URCF のコンセプト

(1) 活動体制について

2023 年度は、12WG の体制（うち 1WG は休止）で活動を行った。各 WG の活動の詳細は別途報告する。

(2) URCF シンポジウム開催

新型コロナウイルスの感染拡大が継続していた 2020 年度年から 2022 年度の三年間は、通常総会と URCF シンポジウムは集会形式ではなくオンラインで開催してきた。2023 年

度は、通常総会はこれまで通り6月にオンラインで開催したが、新型コロナが5類に移行したことから、URCF シンポジウム 2023 は 2019 年度以来 4 年振りに日本科学未来館でリアル開催することとし、8 月 30 日にハイブリッド形式で実施した（URCF/NICT 共催、総務省後援）。

今回の URCF シンポジウムでは、「XR×生成 AI が切り拓く新たな地平：未来社会の創造と変革」をテーマに、XR 事業の展開事例やメタバース・生成 AI の国・企業の最新動向に関する講演が行われ、パネルディスカッションでは、XR×生成 AI の持つポテンシャルと未来社会の展望に関して有意義な議論が行われた。また、展示会場においては、会員企業・大学等による先端的な超臨場感技術の体験デモ展示 10 件が実施された。

【日時】 2023 年 8 月 30 日（水） 13:00～17:30

【場所】 日本科学未来館およびオンライン（Zoom ウェビナー）

【プログラム】

13:00～13:10 主催者挨拶 廣瀬 通孝 氏（URCF 会長／東京大学 名誉教授
来賓 挨拶 豊嶋 基暢 氏（総務省 国際戦略局 審議官）

13:10～14:00 基調講演

「XR が切り拓くフロンティアとコミュニケーションの世界」

岩村 幹生 氏（NTT コノキュー 取締役）

14:00～14:45

特別講演 1

「Web3 時代に向けたメタバース等の利活用について」

山野 哲也 氏（総務省 情報流通行政局 参事官）

14:45～15:45 超臨場感コミュニケーションの先端技術に関するデモ展示

15:45～16:30

特別講演 2

「生成 AI がもたらす社会変革とビジネス戦略」

梶谷 健人 氏（POSTS 代表）

16:35～17:25 パネルディスカッション

・パネリスト：梶谷 健人 氏（POSTS 代表）

美野 秀弥 氏（NHK 放送技術研究所）

・モデレータ：安藤 広志 氏

（URCF 企画推進委員長／情報通信研究機構 上席研究員）

17:25～17:30 閉会挨拶 茨木 久 氏（URCF 副会長／情報通信研究機構 理事）

18:00～20:00 交流会



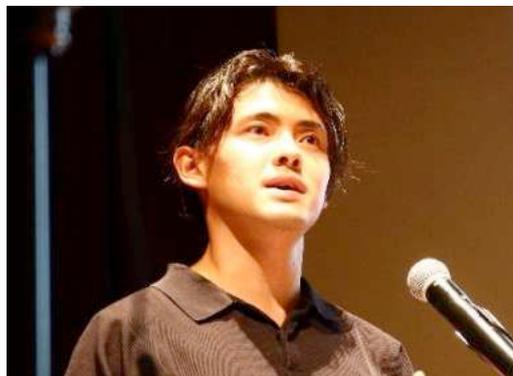
来賓挨拶 豊嶋 基暢 氏 (総務省 国際戦略局 審議官)



基調講演 岩村 幹生 氏 (NTT コノキュー 取締役)



特別講演 1 山野 哲也 氏 (総務省 情報流通行政局 参事官)



特別講演 2 梶谷 健人 氏 (POSTS 代表)



デモ展示会場の様子



パネルディスカッション



閉会挨拶 茨木 久 氏（URCF 副会長/情報通信研究機構 理事）

（3） 羽倉賞受賞

羽倉賞は、一般財団法人 最先端表現技術利用推進協会（表技協）の創設者であり、3D 立体映像などの最先端表現技術の研究・普及に多大な功績を残された故羽倉弘之氏の功績を称え、表現技術の質を高め広い分野への普及に貢献するために、平成 29 年に表技協により創設された賞である。2023 年度は、URCF が推薦した取組みに対して、情報通信研究機構 (NICT) が開発した「リアルタイム REXR（レクサー）～本人の細やかな表情も実時間

で3Dアバターに高精細に再現～」が第7回「羽倉賞」（最優秀賞）を受賞した。過去、URCFが推薦した取組みに対して、フォーラムエイト国土強靱化賞（企業賞）、優秀賞、奨励賞を受賞していたが、最優秀賞の「羽倉賞」を受賞したのは今回が初めてであった。



第7回羽倉賞授賞式の様子

（4） 国際会議、学会等との連携

●国際会議

国際会議 3DSA (3D System and Applications) を URCF の主催で 2023 年 12 月に日本（新潟）でリアル開催した。（詳細は WG の活動報告で紹介する。）

●他組織との共催等

2023 年度は、環境教育普及推進フォーラム、多感覚研究会、高臨場感ディスプレイフォーラム、バーチャルリアリティ学会等と共催でセミナー/シンポジウムを開催した。

（5） WG 活性化の取組み

2023 年度は、新型コロナが 5 類に移行したため、実空間での WG 活動も再開した。6 月 13 日には「先端映像評価 WG」が先端映像技術の見学会（LED ドームシステム等）を東京/横浜において実施し、10 月 27 日には「XR 遠隔コミュニケーション WG 第 1 回会合」をリアル開催した（会場：東京 SCAT 会議室）。また、2024 年 1 月 26 日に WG 連携委員会を開催し、WG リーダの方々から各 WG の取組み状況について報告いただき、企画推進委員および WG リーダの方々に WG の共通課題、今後の活動方針/連携方法等について議論を行った。

ワーキンググループ

2. 各ワーキンググループ(WG)の2023年度活動報告

2023年度は12WG体制で活動を推進した。計12WGの名称、概要、リーダは以下の通りである(Alphabet/五十音順)。なお、「実世界コンテンツWG」は2023年度の活動を休止した。

XR遠隔コミュニケーションWG	リーダー: 今井 弘二 (情報通信研究機構) 概要: Beyond 5G時代を見据えて、遠隔でもリアルな体験を共有できる多様なXR技術・プラットフォームに関する技術的/社会的課題をユーザーサイドから検討と議論を実施
XR社会活用WG	リーダー: 町田 聡 (URCFアドバイザー委員) 概要: プロジェクションマッピング、AR、VRなど実空間にサイバー情報を融合するサイバー・フィジカルに関連する最新情報を共有
アフェクティブメディアWG	リーダー: 嶋海 拓志 (東京大学) 概要: 人の価値判断の根底にある感性・情動を分析し、人の心に快適・感動・活力を生み出す感性創発技術を検討
クロスモーダルデザインWG	リーダー: 小泉 直也 (電気通信大学) 概要: クロスモーダルな感覚情報提示手法について、その可能性や適用限界、評価方法、利用法、デザイン等について議論・体系化
実世界コンテンツWG	リーダー: 谷川 智洋 (東京大学) 概要: 臨場感体験や追体験を実現するVR/AR技術を公共空間、日常世界へと展開し、日常生活や地域に結びつけた実世界コンテンツを実現
情動環境WG	リーダー: 安田 啓紀 (日建設計) 概要: 人々の様々な生活領域にどのような変化が起こるのかを考え、ユーザーの行動と技術とを結び付け新たな社会づくりに貢献
先端映像評価WG	リーダー: 森田 寿哉 (NHKエンジニアリングシステム) 概要: 頭部追従型HMD映像やドーム型全天映像の没入型映像が人に与える影響(正負の効果)等に関する定量的評価について議論
全天映像WG	リーダー: 小芝 真一 (GI company) 概要: 8Kカメラ・プロジェクタによる16K スーパードームシアターの開発・コンテンツ制作に挑戦、2020年のパブリックビューイングを目指す
超臨場感映像WG	リーダー: 山本 健詞 (徳島大学) 概要: 立体映像だけではなく臨場感ある映像すべてを対象とし、セミナーの開催を中心に活動
超臨場感音響WG	リーダー: 亀川 徹 (東京藝術大学) 概要: 超臨場感音響技術に関する最新動向を会員に提供するためのセミナーやデモセッション実施に向けて検討
超臨場感/ICT超高齢社会活用WG	リーダー: 楢山 敏 (東京大学) 概要: 超臨場感技術/ICTを活用した超高齢社会におけるWell-beingに対する技術的アプローチを議論
裸眼立体映像知覚WG	リーダー: 中村 康則 (FA・システムエンジニアリング) 概要: 裸眼立体映像の医療分野に注視したハードウェア及びコンテンツ、VRを広く一般に公開する展示に注力

WG 構成

(1) XR 遠隔コミュニケーションWG

WGに登録されたメンバーと取り上げていきたいテーマなどについて議論を行い、交流をはかるとともに本WGの進め方などについて認識を合わせた。その結果、2023年10月27日にシンポジウムを開催し、デモ体験も含めてコミュニケーションにおいて重要な音響に関する技術や大学の先端的なXR技術の紹介を行った。

● 「2023年度第1回 XR 遠隔コミュニケーション・シンポジウム」

【日時】2023年10月27日(金) 14:30-17:30

【場所】SCAT 会議室

【参加者数】19人(講演者を含む)

【概要】

新たな新型コロナウイルス感染症が 5 類へ移行してからもうすぐ半年が経ち、コロナ禍で注目を集めた遠隔コミュニケーションツールのいくつかは、新たな基盤技術として根付きつつある。本会合ではポストコロナの状況を俯瞰するとともにコミュニケーションにおいて重要な音響に関する技術や大学の先端的な XR についての技術の紹介とその体験会を実施した。

・ 挨拶 情報通信研究機構 今井 弘二（リーダー）

・ 話題提供＋体験会

(1) 「360 Reality Audio による立体音響体験の実現」 SONY 澤志聡彦

(2) 「誰もが安心して使えるメタバース開発への挑戦」

東京大学 伊藤 研一郎

(3) 「MetaDeVA：メタ空間を活用した避難訓練ゲームの開発について」

大阪工業大学 大井 翔





シンポジウム風景

(2) XR 社会活用 WG

「XR 社会活用 WG」では XR に関するテクノロジーの社会活用に注目している。2024 年元旦に「令和 6 年能登半島地震」が発生して甚大な被害が出たことから、今年度は、XR 関連技術の防災教育への活用をテーマにセミナーを 1 回開催した。

● 「XR 社会活用 WG 企画セミナー “「XR の災害体験への活用」”」

(一社) 環境教育普及推進フォーラムとの共催

【日時】2024 年 2 月 29 日 (木) 13:00-14:30

【場所】オンライン開催

【参加者数】12 人 (講演者を含む)

【概要】

「XR 社会活用 WG」では、XR 技術の防災への活用事例を紹介するセミナーを開催した。本セミナーは昨年暮れより計画していたが、年明け早々の能登半島で発生した地震災害の被害は甚大で、災害に対する日頃の備えの重要性を改めて認識することとなり、今回のセミナーでは神奈川歯科大学の板宮朋基先生をお

招きして、主に AR を活用した水害や火災の体験への活用と、一部 VR を活用いた地震体験の事例を紹介していただいた。

また、AR による水害や火災の疑似体験は海面上昇や森林火災など地球温暖化の影響の理解にも有用であり、環境問題の観点からもお話を伺った。

【プログラム】

13:00-13:05 開催挨拶

町田 聡氏（アンビエントメディア代表／URCFXR 社会活用 WG リーダー／
（一社）環境教育普及推進フォーラム代表理事）

13:05-13:55 講演「XR の防災教育への活用」

～災害リスクを『わがこと化』するために～

板宮 朋基氏（神奈川歯科大学大学院 XR 研究所 所長）

13:55-14:25 講演者及び参加者による Q&A とディスカッション

その後参加者含めたフリーディスカッション

14:25-14:30 閉会挨拶

町田 聡氏（アンビエントメディア代表／URCFXR 社会活用 WG リーダー／
（一社）環境教育普及推進フォーラム代表理事）



セミナー風景

(3) アフェクティブメディア WG

2023年度は、クロスモーダルデザインWGと共同でセミナー（「Future Humanity—身体と感覚が紡ぐ未来シナリオ」）を実施した。詳細はクロスモーダルデザインWGの項目を参照。

(4) クロスモーダルデザイン WG

2023年度は、多感覚研究会と共催でワークショップを1回、博報堂とアフェクティブメディアWGと共同でセミナーを1回開催した。

●第14回多感覚研究会

【日時】2023年11月3日(金)～2023年11月5日(日)

【場所】鳥根県鹿足郡吉賀町六日町中学校体育館

【参加者数】約50人（講演者を含む）

【概要】

多感覚研究会は、分散しがちな異なる感覚を研究する人々が集まる機会をすることで、知見の共有、議論と連携の促進、多感覚研究の活性化を目指して開催されており、URCF クロスモーダルデザインWGでも、同様の目的で活動していることから、多感覚研究会と共催で、視覚・聴覚・体性感覚・味覚・嗅覚・内受容感覚など1つ以上の感覚相互作用に関する最新研究の紹介、議論を行うワークショップを2泊3日の合宿形式で開催した。

【プログラム】

・11月3日(金)

18:30- レセプション

・11月4日(土)

8:45-9:00 ボディーワーク・セッション

9:00-9:50 チュートリアル講演 1 (Dr. Ana Tajadura-Jimenez)

“The Hearing Body: Sound-driven Body Transformation
Experiences and Applications for Emotional and Physical Health”

10:00-10:30 多感覚研究 × まちづくりワークショップ 1「窓」(阪井祐介氏)

10:30-12:50 ポスター発表 & デモ発表 & ランチ & 散歩

12:50-13:40 多感覚研究 × まちづくりワークショップ 2「寂」(小笠原和葉氏、築輝孝氏)

13:50-14:40 クロスモーダルデザイン WS (青山一真氏)

「神経刺激インターフェースによる感覚提示と効果器アクチュエーション」

14:40-15:40 ポスター発表 & デモ発表

15:40-16:30 チュートリアル講演（渡邊由美氏）

「アマゾン先住民の治療師が見る夢 ～熟練の治療師の夢解釈と身体性～」

18:30- 懇親会

・11月5日(日)

9:00-12:00 錯覚の大展覧会



セミナー風景

●セミナー「Future Humanity—身体と感覚が紡ぐ未来シナリオ」

【日時】2024年2月17日(土) 13:00～18:00

【場所】UNIVERSITY of CREATIVITY 東京キャンパス（東京都港区赤坂5-3-1 赤坂Bizタワー23階）

【参加者数】約30人（講演者を含む）

【概要】

最前線のクロスモーダル研究発表セッション、身体と感覚拡張の未来を描き出し人間らしさを発揮する社会実現の方法、創造力拡張の可能性、企業ブランドの開拓など、私たちが本来もっている感覚・身体・感情を言語化しながらFuture Humanityが切り拓くあたらしい世界を模索するトークセッションを開催しました。

【プログラム】

第1部：インスピレーションセッション

13:00～13:10 本日の趣旨、UNIVERSITY of CREATIVITYについて

13:10~14:50 若手トップランナーが語る VR、クロスモーダル研究の最前線
ダイアログ

- 「バーチャリティと空間に関する探求のこれから」 石田康平（東京大学先端科学技術研究センター）
- 「好きな食物を好きな人と好きな場所で食べられる AR/VR 研究」 中野萌士（東京大学大学院情報理工学系研究科）
- 「力提示装置による環境/身体の変容体験の創出」 橋本健（東京大学大学院情報理工学系研究科）
- 「アバター体験を通じた物語的自己の変容に関する質的研究」 畑田裕二（東京大学大学院情報学環）
- 「クロスモーダルインタラクションの観点から拡張する触知覚提示」 平尾悠太郎（奈良先端科学技術大学院大学）
- 「視覚の自在な変調を目指した光学シースルーHMD の高性能化」 廣井裕一（クラスター株式会社メタバース研究所）
- 「対人コミュニケーションにおける目に関する非言語メッセージの表現手法」 松田暁
- 「力覚遍在化が拓く空間インタラクションの未来」 吉田貴寿（慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科）

第2部：専門を超えた越領域セッション

15:00~15:10 セッション趣旨

15:10~15:30 登壇者紹介&Humanity Thinking 紹介

15:30~17:00 身体や感覚拡張が紡ぐ人間らしさの未来とは？ Augmented Creativityークロスモーダルで人間の創造力はどうか拡張されるか？



セミナー風景

(5) 実世界コンテンツ WG

2023年度は、WG リーダの職務の都合から、活動を一旦休止することとした。

(6) 情動環境 WG

本 WG では、人々の様々な生活領域にどのような変化が起こるのかを考え、ユーザーの行動と技術とを結び付け新たな社会づくりに貢献することを目的としている。本年度は、昨年度作成した情動環境家具の製品化に向けた各種試験等を行った。また、情動と環境をテーマに様々な専門家にインタビューを行い、冊子を作成した。

今後は、会員の皆様への情動環境家具の体験会などの検討を進めていく。

(7) 先端映像評価 WG

HMD 映像の心理的効果やその要因となる映像の特徴を求めるとを目的として、その対応付けをおこなう評価実験の実施に向けて議論を進めてきた。HMD 映像とドーム映像を比較する視点での評価を検討するために、最新のドーム映像見学会を実施した。さらに当 WG の今後の活動方針について議論を進めた。

●第1回 WG 会合

日時：2023年4月21日（金）13:30～16:00

場所：ZoomによるWeb会議

内容：心理物理量を用いた評価手法の検討、HMD環境における近接空間における効果の評価手法の検討、HMD標準化動向報告

●ドーム映像見学会

日時：2023年6月13日（火）15:00～18:00

場所：国立科学博物館（上野）およびプラネタリア YOKOHAMA（横浜）

内容：国立科学博物館の360度ドーム映像とプラネタリア YOKOHAMA のLEDドーム映像を見学

●第2回 WG 会合

日時：2023年7月21日（水）13:30～16:00

場所：ZoomによるWeb会議

内容：今後の評価手法の検討、HMD標準化動向報告および画像センシング展2023レポート

●第3回 WG 会合

日時：2023年8月25日（金）13:30～16:00

場所：ZoomによるWeb会議

内容：身体反応を生じさせる刺激に関する事例について

●第4回 WG 会合

日時：2023年10月13日（金）10:00～12:00

場所：ZoomによるWeb会議

内容：刺激の種類と人間の身体反応の主観評価について具体例を調査、HMD標準化動向報告

●第5回 WG 会合

日時：2023年11月17日（金）13:30～16:00

場所：ZoomによるWeb会議

内容：刺激の種類と人間の身体反応の主観評価について具体例の検討、VR映像の印象評価の実例を紹介

●第6回 WG 会合

日時：2023年12月15日（金）10:00～12:00

場所：Zoom による Web 会議

内容：今後の WG の活動について、IDW23 報告および In Camera VFX 技術解説

●第 7 回 WG 会合

日時：2024 年 1 月 19 日（金）13:30～16:00

場所：Zoom による Web 会議

内容：来年度の活動方針、WG メンバーについて

●第 8 回 WG 会合

日時：2024 年 2 月 29 日（木）13:30～16:00

場所：Zoom による Web 会議

内容：来年度の活動方針、WG メンバーについて

●第 9 回 WG 会合

日時：2024 年 3 月 19 日（火）13:30～16:00

場所：Zoom による Web 会議

内容：来年度の活動方針案作成



オンライン会議



LED ドーム見学会

(8) 全天映像 WG

全天映像を用いて実現できるバーチャルツーリズムのモデルを関係企業・団体・自治体等と連携し具体テーマに落とし込み実証することを目標に活動を行ってきたが、それぞれ、会員企業との個別案件ベースでの活動とならざるをえないため、WG としてはそれぞれのテーマを掌握したうえで、そこでの情報・ノウハウを蓄積するにとどまった。将来のツーリズムとしては、メタバース分野にまで検討を展開し、XR 遠隔コミュニケーション WG との意見交換を実施し、今後の連携を検討した。本 WG リーダの退会のため今年度で活動を終了することとする。

(9) 超臨場感映像 WG

URCF が主催して開催している国際会議 3DSA(3D System and Applications)では、超臨場感映像 WG リーダの山本健詞（徳島大）氏が Technical Program Committee Chair を務めるなど、本 WG が主体となって 3DSA を企画・運営している。新型コロナウイルス感染拡大で 2020 年開催は延期になったが、2021 年度は韓国で、2022 年度は台湾でハイブリッド開催された。2023 年度は日本がホスト役となり、前回の日本開催(2019 年：新型コロナウイルス感染拡大前)と同様にリアル開催した。また、同様に国際会議 IDW(International Display Workshops)23 と同時開催した。3DSA2023 の概要は以下の通りである。

【日時】 2023 年 12 月 6 日（水） - 8 日（金）

【場所】 朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター（新潟市）

【主催・共催】 URCF, 日本バーチャルリアリティ学会, 映像情報メディア学会立体メ
ディア技術研究会（日本）

ARMI, ETRI, RAPA, KIBME（韓国）

3DIDA, ITRI, SID Taipei Chapter（台湾）

【セッション数】 Oral Session: 9、Poster Session: 3

（参考 3DSA2019 では Oral Session: 9、Poster Session: 2）

【論文数】 78 件 内訳：オーラル 35 件、ポスター 43 件

【大会 Chairs】

- ・ General Conference Chair : 陶山教授（宇都宮大学）
- ・ Technical Program Committee Chair : 山本教授（徳島大学、超臨場感映像 WG リーダ）

また、Committee Meeting では次回韓国で開催される 3DSA2024 について議論したが、具体的な日程と場所は改めて確定することとなった。





また、次の通り「高臨場感ディスプレイフォーラム 2023」を共催いたしました。

【日時】2023年11月24日（金）

【場所】大田区民ホール・アプリコ（小ホール）

【共催/連催】超臨場感コミュニケーション産学官フォーラム, 映像情報メディア学会（映像表現&コンピュータグラフィックス研究委員会, 情報ディスプレイ研究委員会, 立体映像技術研究委員会）, 画像電子学会（企画委員会）, 日本バーチャルリアリティ学会, 電気学会（電子デバイス技術委員会第五期次世代インタラクティブディスプレイ協同研究委員会）, 電子情報通信学会（電子ディスプレイ研究専門委員会）, （順不同）

【協賛】映像情報メディア学会（メディア工学研究委員会）, SID日本支部, 画像電子学会（多次元画像研究委員会）, 芸術科学会, 3Dコンソーシアム, 最先端表現技術

利用推進協会（三次元映像のフォーラム），照明学会（固体光源分科会），電子情報通信学会（画像工学研究専門委員会），日本映画テレビ技術協会，日本液晶学会，日本光学会（ホログラフィックディスプレイ研究会）（順不同）

【テーマ】 ～実世界のメディア化と高臨場感表現～

【プログラム】

開会挨拶 伊達 宗和（徳島文理大学）

世界一美しい裸眼 3D ディスプレイを目指して 小池崇文，加納裕，濱岸五郎，高橋秀也（Real Image Inc.）

ORIME：身の回りのものをメディア化する折り紙式デバイスの開発 堀洋祐（カサネタリウム）

ホログラフィックディスプレイ用磁気光学空間光変調器の開発 ～自然な 3 次元映像の再生に向けて～ 町田賢司（NHK 放送技術研究所）

インターネット広告のためのデジタルヒューマン技術 武富貴史（株式会社サイバーエージェント）

空中ディスプレイの原理と応用事例紹介、及び今後の展望 大坪誠（株式会社アスカネット 空中ディスプレイ事業部）

液晶空間光変調素子の超高解像度化技術と電子ホログラフィの画質改善 藤掛英夫，中谷誠和（東北大学）

閉会挨拶 駒形英樹（埼玉医科大学）

（10） 超臨場感音響 WG

超臨場感音響 WG では、隔年でデモセッションとセミナーを交互に開催し、超臨場感コミュニケーションを支える音のシステムを、商品からプロトタイプまでレベルに関係なく実際に体験する機会の提供、および最新技術動向を共有することとしている。2020 年度以降、新型コロナウイルス感染拡大のため従来の活動ができなかったが、2023 年に新型コロナウイルスが季節性インフルエンザと同じ第 5 類に分類されたことから、今年度は対面のデモセッションを開催した。来年度は、感染状況を考慮しつつ、セミナーの開催を検討している。

●デモセッション

【日時】2024 年 3 月 22 日（金）13:00 - 17:00

【場所】九州大学 大橋キャンパス

芸術工学部 音響特殊実験棟（スタジオ，多目的室，半無響室等）

【開催概要】

〈音響特殊棟 2F スタジオ〉

(1) 室内音響理論に基づく仮想音源リバーブ／羽入敏樹・星和磨（日本大学）

任意の室容積，室表面積，平均吸音率，音源受音点距離等のわずかなパラメータ

から室内音響理論に基づいて空間リバーブを生成する手法を紹介した。

(2) 3D サンプリングリバーブ

福岡シンフォニーホール(ACROS)で測定した 2 種類のデータを使用して、同ホールの響きを 3 種類の手法で再現し比較試聴した。

2-1) 24ch 鋭指向性マイクアレイ / 尾本章(九州大学)

指向性インパルス応答と非相関化技術を用いて 24ch のサンプリングリバーブを生成し、ホールの響きを 3D 再現。

2-2) 仮想音源サンプリングリバーブ「VSVerb」 / 中原雅考(オンフューチャー/ソナ)

Ambisonics A-Format マイクで測定した 4ch のインパルス応答からホールの仮想音源情報を抽出することで 3D シーンベースのサンプリングリバーブを生成し、ホールの響きを 3D 再現。

2-3) バーチャルマイキングによる仮想録音 / 亀川徹(東京藝術大学)

ホール内に仮想的に設置した 24 本のマイキングの応答を VSVerb から合成し、仮想マイキングによる音場再現(創造)を試みた。

(3) 東京藝大における立体音響制作の取り組み / 亀川徹(東京藝術大学)

東京藝大で取り組んでいる 27.2ch の制作方法の概要と、KORG の LiveExtreme を用いた Auro3D による配信の取り組みを紹介した。

(4) 3D オーディオ収録用 ヘプターペンタゴンマイクアレイの開発 / 入交英雄・沼田彰彦(WOWOW 技術推進ユニット)

3D オーディオ用のマイクアレイ開発の背景、マイクアレイの特徴、運用例、効果などに関して、実際に収録したコンテンツを再生しながら解説した。

<音響特殊棟 1F 多目的室>

(5) ラインアレイスピーカによる音場合成技術 / 佐々木陽(NHK)

前後に配置した 2 列のラインアレイスピーカによる音場合成技術を活用したコンテンツを紹介した。

<3 号館 3F 残響可変室>

(6) パネルスピーカを用いた拍手音再生システム / 河原一彦・井上礁太郎(九州大学), 佐藤尚・石川憲治・鎌本優(NTT)

パネルスピーカの特徴に基づいて、高い包まれ感(臨場感)の得られる拍手音再生を実現する試みを紹介した。

●継続的活動

各種情報を Wiki へアップし、会員間の情報共有を図った。



デモセッション風景

(11) 超臨場感／ICT 超高齢社会活用 WG

超臨場感／ICT 超高齢社会活用 WG では、第 28 回バーチャルリアリティ学会大会において OS「高齢者×メタバース×ELSI」を共催した。本 OS では、VR 技術が高齢者のリハビリをはじめ、社会で広く使われていくことによって豊かな日常生活を送ることができる期待と、その一方で、心身の衰えた高齢者らが VR 技術を利用することにどのような問題があるかについてパネルディスカッションを展開した。

【日時】2023 年 9 月 14 日

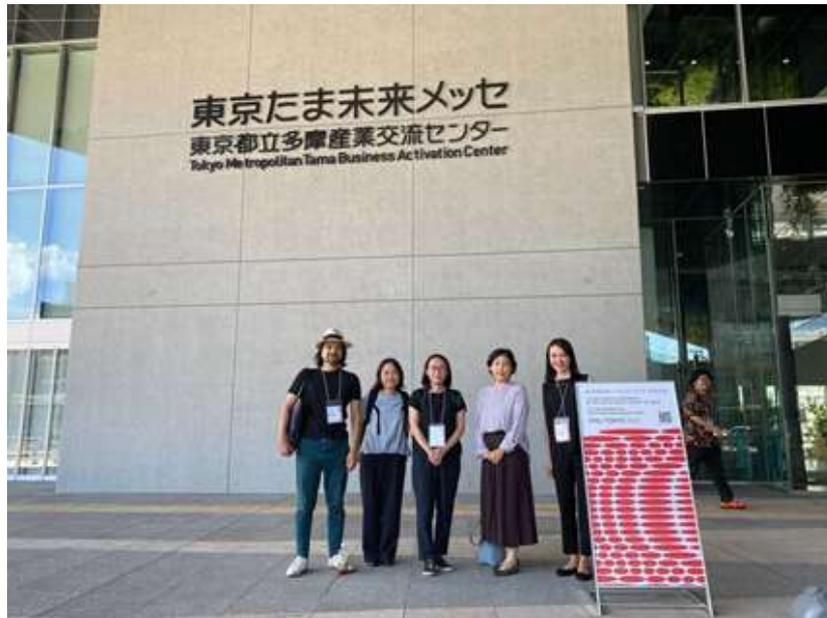
【場所】東京都立多摩産業交流センター 東京たま未来メッセおよびオンライン

【参加者数】約 60 人

【概要】

OS では、パネリストに、法学の視点から畑中綾子氏（尚美学園大学）、倫理学の視点から土屋裕子氏（立教大学）、社会心理学の視点から菅原育子氏（西武文理大学）、工学やデザインの視点から二瓶美里氏（東京大学）の 4 名を迎えた。ディスカッションでは、VR の普及により、老いを意識しない空間にあることがかえって現実の老いを否定することにつながる可能性や、現実世界のバリアをメンテナンスする必要がある

なくなることへの懸念が語られ、フロアからも VR 空間が国境を超える場合の対応について等の多くの意見が出され、セッション終了後にも続いた。



2023VR 学会にて（左から檜山・菅原・二瓶・畑中・土屋）

(12) 裸眼立体映像知覚 WG

従来より医療分野での裸眼立体ディスプレイを活用した活動を実施してきたが、裸眼立体映像を取り巻く世の中の状況、および新型コロナウイルス感染拡大によるリアルな場での活動（特に、医療分野での活動）が制限されたことから、2023 年度は活動を休止した。また、本 WG リーダの退会のため今年度で活動を終了することとする。

【連絡先】

超臨場感コミュニケーション産学官フォーラム



超臨場感コミュニケーション産学官フォーラム事務局

〒169-0073 東京都新宿区百人町2-21-27

アドコム・メディア株式会社内

TEL : 03-3367-0571 / FAX : 03-3368-1519

Email : sec@urcf.jp

(委員会・研究会名)
超臨場感コミュニケーション産学官フォーラム

2023年度 収支実績

2023年4月1日から2024年3月31日まで
2024/3/31時点

収入		支出	
勘定科目	実績	勘定項目	実績
会費等収入	0	会議費	1,006,211
正会員 55会員(会費0円)	0	会議費	52,504
		会場費	953,707
懇親会参加費	96,500	謝金	230,000
		講演料	230,000
		交通費	0
その他収入(利息)	86	展示会	0
		懇親会	244,000
		印刷製本費	0
		パンフレット他	0
		通信費	133,681
		送料	7,678
		サーバー関連	92,123
		Zoom	33,880
		事務局費	1,944,704
		事務委託費	1,925,000
		コピー代	16,776
		交通費	2,928
		その他	418,030
		アルバイト代	49,240
		備品類	360
		3DSA	357,230
		振込手数料	6,200
		その他	5,000
		予備費(雑費)	0
		WG活動強化	0
		将来運用資金積立、等	0
当期収入合計(A)	96,586	当期支出合計(C)	3,976,626
前期繰越額	10,771,411	当期収支差額(A - C)	(3,880,040)
収入合計(B)	10,867,997	次期繰越収支差額(B - C)	6,891,371

監査報告書

超臨場感コミュニケーション産学官フォーラム
会長 廣瀬通孝 殿

超臨場感コミュニケーション産学官フォーラムの会計処理規程、旅費及び謝金規程に基づき、令和5年度（令和5年4月1日から令和6年3月31日）のフォーラムの会計について監査を実施した結果、会計帳簿の記載は正確で、関係書類ならびに会計処理はすべて適正であり決算書に相違がないこと、および活動執行の状況について監査した結果、いずれも適正かつ適法であることを認めます。

令和6年4月19日

会計監査役

高田 英明 

超臨場感コミュニケーション産学官フォーラム
役員候補

(会員50音順、敬称略)

会長

廣瀬 通孝 東京大学 先端科学技術研究センター
プロジェクトリーダー

副会長

~~種谷 元隆 シャープ株式会社 常務 研究開発本部 本部長~~

茨木 久 国立研究開発法人情報通信研究機構 理事

木下 真吾 日本電信電話株式会社 執行役員
研究開発マーケティング本部 研究企画部門長

今井 亨 日本放送協会 放送技術研究所 所長

会計監査役

高田 英明 長崎大学 副学長(情報・DX推進担当) CDO

超臨場感コミュニケーション産学官フォーラム 幹事候補

(会員名50音順、敬称略)

浅井 孝浩	株式会社NTTドコモ クロステック開発部 部長
伊達 厚	キヤノン株式会社 イメージング事業本部IMG第三事業部・3D事業推進プロジェクト 上席
内藤 整	株式会社KDDI 総合研究所 執行役員 XR部門長
岩内 謙	シャープ株式会社 研究開発本部 ソサイエティイノベーション研究所 第3研究室 室長
井澤 俊輔	株式会社JVCケンウッド メディア事業部 第一技術部 部長
安藤 広志	国立研究開発法人 情報通信研究機構 (NICT) ユニバーサルコミュニケーション研究所 先進的リアリティ技術総合研究室 上席研究員
剣持 千智	ソニーグループ株式会社 AI 技術部門 クリエイティブAI 開発部
原 豪紀	大日本印刷株式会社 ABセンター ICT開発ユニットP&Iイノベーション推進部 先進技術研究開発グループ 主席研究員
広明 敏彦	日本電気株式会社 グローバルイノベーションユニット 上席技術主幹
日高 浩太	日本電信電話株式会社 サービスイノベーション総合研究所 人間情報研究所長
洗井 淳	日本放送協会 NHK放送技術研究所 空間表現メディア研究部 部長
佐藤 正樹	パナソニックホールディングス株式会社 技術部門 テクノロジー本部 デジタル・AI技術センター モビリティソリューション部 1課
池田 直仁	株式会社日立製作所 研究開発グループ 計測インテグレーションイノベーションセンター アンビエントインターフェース研究部 主任研究員
外川 太郎	富士通株式会社 人工知能研究所 ヒューマンリーズニングCPI プリンシパルリサーチャー
櫻井 智史	三菱電機株式会社 情報技術総合研究所 情報表現技術部 映像表現技術グループ グループマネージャー

※下線：新幹事

二重線：退会

超臨場感コミュニケーション産学官フォーラム
役職特別会員

(敬称略)

会長

廣瀬 通孝 東京大学 先端科学技術研究センター プロジェ
クトリーダー

WGリーダー

久武 雄三 静岡大学 教授
(先端映像評価WG)

亀川 徹 東京藝術大学 教授
(超臨場感音響WG)

小泉 直也 電気通信大学 准教授
(クロスモーダルデザインWG)

谷川 智洋 東京大学 特任教授
(実世界コンテンツWG)

鳴海 拓志 東京大学 准教授
(アフェクティブメディアWG)

檜山 敦 一橋大学 教授
(超臨場感/ICT超高齢社会活用WG)

山本 健詞 徳島大学 教授
(超臨場感映像WG)

超臨場感コミュニケーション産学官フォーラム 2024年度 事業計画案

超臨場感コミュニケーション産学官フォーラム（URCF）の2024年度の事業計画は下記のとおりとする。

記

1. 活動方針

(1) 基本コンセプトの堅持・実践

- ・ URCFは、近未来の情報通信技術のビジョンを描き、ヒューマンセントリックな技術革新および新しい社会価値の創出を目指して、単一の企業・大学・研究機関だけではなしえない取組みを産学官共同で推進する（別紙1）。

(2) 2024年度のURCFの活動方針

- ・ 2020年以降、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、実空間でのURCFの活動は困難となり、予算執行も計画通り進まず、2021年度～2023年度までの3年間は、幹事会の承認を経て年会費の徴収は停止した。しかし、2023年度は、新型コロナウイルスが5類に移行したため、URCFにおいても実空間での活動を再開し、8月にURCFシンポジウム2023をハイブリッド形式で開催した。また、国際会議3DSA、WGの見学会・体験会等もリアルな場で実施した。
- ・ 今後、実空間における活動の増加が見込まれることから、企画推進委員会では2024年度より年会費の徴収を再開する案をとりまとめ、2023年11月27日に開催された幹事会において承認を得た。一方、年会費の徴収再開を契機に18社から退会の申し出があり、2023年4月1日現在、正会員の数は37となった（資料1）。しかし、現会員の方々からは、今後の活動に対する期待の声も寄せられており、人と人の出会いやデモ体験等のためのリアルの場での活動、リモートのメリットを生かしたハイブリッドのセミナー等の継続、国や標準化の動向の会員へのフィードバック、等のご要望をいただいている。
- ・ 企画推進委員会としては、このような会員の方々のご要望に応えるべく、URCFシンポジウム2024のハイブリッド開催（9月初頭を予定）の企画を進めている。本年度のシンポジウムでは、特に、没入型ライブ体験やメタバースの国際標準化の最新動向、XR・生成AIの産業応用等に関する最先端の技術や将来展望に関して情報共有を行うとともに、参加者の皆様と議論を深めたいと考えている。さらに、リアル会場において先端技術の体験デモ展

示や人脈形成のための交流会の実施も企画・検討している。また、コロナ禍で活動が停滞気味だった各WGの活動の活性化も図っていく予定である。

- ・ 以上のように、URCFでは、2024年度も先端技術や社会の動向を見据えつつ、超臨場感技術の社会活用に向けた議論や連携を推進できる場を幅広く創っていきたい。

(3) WG活動の推進

- ・ 各WGにおける取組みを推進

各WG（別紙2）においては、最新技術動向セミナー、ワークショップ・アイデアソン、見学会・体験会、各種イベント・展示会への参画、実証データの収集・分析等の取組みを今後も継続して進める。また、若手人材の活動を積極的に支援し、将来の自律的発展の基盤を築く。さらに、国内外の技術動向や社会情勢に応じて、新規WGの起ち上げも検討・企画していく。

- ・ WG間の情報共有・連携

各WGリーダーと企画推進委員会メンバーで構成される「WG連携委員会」等を通じて、各WGの活動状況を共有するとともに、WG間で連携した活動の企画を進める。また、各WGが抱える課題については、企画推進委員会メンバーとともに具体的な解決策を検討し、必要に応じて活動内容の軌道修正・新たな展開等を機動的に図っていく。

(4) 企画推進委員会主催のセミナー・ワークショップの実施

- ・ 各WGの活動に加えて、会員の方々の要望や社会的動向を踏まえて、企画推進委員会においてセミナー・ワークショップ等を企画し、本フォーラムの活性化と社会的価値創出に役立てる。

(5) URCF活動の外部への情報発信

- ・ ホームページの内容の充実を進め、「活動レポート（Report）」のページにおいてURCFの活発な活動状況を外部に対して発信する。

(6) 会員の要望に応じて、オンライン/実空間での開催を問わず、展示会・イベント等における出展やセミナー開催を支援する。

(7) 外部連携・国際交流

- ・ 国際会議3DSA（Three Dimensional Systems and Applications）2024（韓国）を海外機関と共に主催する予定。
- ・ 外部の学会・団体との連携を進める。特に、SID日本支部、日本基礎心理学会、VR学会等と連携したセミナー等の企画・開催を進める。

(8) 国の機関（総務省・内閣府等）との連携

- ・ 今後取り組むべき研究開発テーマ、実証実験課題等を国（総務省等）に対して提言し、国の課題解決に向けた取組みを実施する。

2. 会合の活動頻度

(1) 年次総会	1回
(2) シンポジウム	1回
(3) 幹事会	1回
(4) 企画推進委員会	10回
(5) WG連携委員会	3回
(6) アドバイザリー会議	1回
(7) WG活動（セミナー・ワークショップ等）	30回程度
(8) 展示会における出展／セミナー開催	1回
(9) 国際会議3DSA（主催）	1回
(10) 特別セミナー・ワークショップ開催	1回

3. WGの活動計画

(1) XR遠隔コミュニケーションWG

- ・ リーダー：今井 弘二（情報通信研究機構）
- ・ サブリーダー：近藤 亮太（東京大学）
- ・ 運営グループ：伊藤 研一郎（東京大学）、大井 翔（大阪工業大学）
- ・ 活動内容：

オンラインによる定期的な情報共有や意見交換、リアル会合によるセミナーや各種技術などの体験・視察を実施する。また、他のWGとも連携して交流をはかるとともに登録メンバー間の共創的な取り組みなどを推進する。

(2) XR社会活用WG

- ・ リーダー：町田聡（アンビエントメディア/URCFアドバイザリー委員）
- ・ 運営グループ：
- ・ 活動内容：

XR（AR, VR, MR・・・）やプロジェクションマッピング、裸眼立体視、ロボットやAI、それらが統合されるメタバースなど、今後登場する新たな表現やコミュニケーション手段を用いて具体的な社会課題の解決に活用することを視野に、年1回程度、セミナーを開催することを計画する。

(3) アフェクティブメディアWG

- ・ リーダー：鳴海拓志（東京大学）
- ・ 運営グループ：金じょんひょん（博報堂）、櫻井翔（電気通信大学）

- ・ 活動内容：

感性・情動をセンシングによって分析し、感性・情動の理解と評価を可能にする感性センシングする仕組み(アフェクティブセンシング)、感性・情動に積極的に働きかけて新たな価値を提供するための仕組み(アフェクティブアクチュエーション)を総してアフェクティブメディアと捉え、現状の利活用事例を踏まえた上で、その可能性や限界、評価方法について議論・体系化する。これをもとに、人々の気持ちを動かすものづくりやサービスデザインの実現、オフィスや工場などの生産効率向上、心身の健康・QoLの向上など、幅広い分野でのアフェクティブメディアの展開を検討するワークショップ・講演会を2回程度開催する。特に感情労働やダイバーシティ・インクルージョンなど、社会問題との関わりを考慮しながらアフェクティブメディアのあり方を考えるワークショップ・講演をオンラインあるいは対面で開催していくことを計画している。

(4) クロスモーダルデザインWG

- ・ リーダー：小泉直也（電気通信大学）
- ・ 運営グループ：鳴海拓志（東京大学）
- ・ 活動内容：

感覚間相互作用(クロスモーダル)とは、ある感覚の情報が他の感覚の情報を受けて補完され、知覚や認知が変わる特性を指す。クロスモーダルの特性を利用した情報提示では、従来よりもシンプルな手法で多様かつ臨場感の高い五感体験が提供可能になる。そこで本WGでは、クロスモーダルな感覚情報提示について、現状の事例を踏まえた上で、その可能性や限界、評価方法について議論・体系化する。さらにクロスモーダル技術を最大限活用するための利用法やデザインに関しても議論することで、実応用を見据えた知見の蓄積を進める。本年度は昨年度から始めた参加企業とのワークショップを中心に開催する。

(5) 実世界コンテンツWG

- ・ リーダー：谷川智洋（東京大学）
- ・ 運営グループ：仲野潤一（國學院大學） 沢田典宏（レイ・フロンティア） 長谷川雄一（アヘッド）
- ・ 活動内容：

2024年度は、メタバースを用いた実世界コンテンツの応用手法とビジネス化について、ワークショップを用いた議論を行う。自治体などによる観光や地域振興のためのVRコンテンツ・メタバースの構築技術と活用をテ

ーマにワークショップやシンポジウムを実施する。また、デジタルアーカイブした実空間コンテンツのメタバースへの展開手法の整理、コンテンツをメタバースを通して活用するに当たって必要な人材・制度などの意見収集や実証データの収集を行う。

(6) 情動環境WG

- ・ リーダー：安田啓紀（日建設計）
- ・ 運営グループ：谷川智洋（東京大学）
- ・ 活動内容：

本 WG では、人々の様々な生活領域にどのような変化が起こるのかを考え、ユーザーの行動と技術とを結び付け新たな社会づくりに貢献することを目的としている。令和 6 年度は、オフィス、商業施設、駅や空港などの公共施設等のセミパブリック・パブリックな場における情動に影響を与える環境技術等の開発を進め、研究会、展示会等を通じた意見収集などを行う。

(7) 先端映像評価WG

- ・ リーダー：久武雄三（静岡大学）
- ・ 運営グループ：安藤広志（情報通信研究機構）
- ・ 活動内容：

先端映像、取り分けHMD映像が人に与える影響に関する定量的評価の議論や実験を行い、先端映像の価値を高める施策の提案を行う。様々な用途におけるHMD映像の例えば臨場感を構成する要素を明らかにし、人の感性に寄り添った映像技術の発展に寄与するためにHMD映像に限らず、空中結像ディスプレイ映像やドーム映像など様々な先端映像の調査研究を行う。

(8) 超臨場感映像WG

- ・ リーダー：山本健詞（徳島大学）
- ・ 運営グループ：高木康博（東京農工大学）、伊達宗和（徳島文理大学）、木全英明（工学院大学）
- ・ 活動内容：

3D Systems and Applications 国際会議 (3DSA) (<https://www.3dsa.kr/>) を、8 月 21-23 日に韓国済州島国際コンベンションセンターにて International Meeting on Information Display (IMID) と共催で行う。URCF が主催者の一つとなっており、例年通り当 WG が窓口として活動す

る。この国際会議では、以下に示す通り立体映像はもとより臨場感ある映像すべてを取り扱うこととし、映像以外にもインタラクションのための技術なども取り扱う。

スコープリスト： Holographic Technology、AI technology for 3D、Light field display、3D Capture & Processing、3D Coding & Transmission、3D Displays & Systems、3D Contents and Applications、Augmented Reality & Virtual Reality、Metaverse、Immersive Video Processing & Coding、Free Viewpoint Image Systems、Interactive Systems、Illusion、Human Brain Sensing、Multi-modal/Cross-modal Systems、Other Related Topics

また、昨年度に引き続き、高臨場感ディスプレイフォーラムを11月頃に共催で行う。詳細な日程や会場は未定。

(9) 超臨場感音響WG

- ・ リーダー：亀川徹（東京藝術大学）
- ・ サブリーダー：羽田陽一（電気通信大学）
- ・ 運営グループ：尾本章（九州大学）、佐々木 陽（NHK）、鎌本優（NTT）、小山翔一（東京大学）、坂本修一（東北大学）
- ・ 活動内容：

本WGでは、新型コロナ以前は、超臨場感音響技術に関する最新情報を会員に提供するためのセミナーとデモセッションを隔年で交互に開催してきた。昨年度はようやくデモセッションを再開できたことから、本年度は、セミナーを日本音響学会の高臨場感オーディオ調査研究委員会と共催で開催する。その他、引き続きセミナー資料などを事前にWikiに掲載することにより、会員間の情報共有を図る。

(10) 超臨場感/ICT超高齢社会活用WG

- ・ リーダー：檜山敦（一橋大学）、アドバイザー：稲見昌彦（東京大学）
- ・ 運営グループ：菅原育子（東京大学）、近藤武夫（東京大学）、田中文英（筑波大学）
- ・ 活動内容：

超高齢社会を取り巻く情勢の変化を踏まえて、超臨場感通信を含むICTを活用した社会とのつながりの維持、コミュニティ形成、健康増進に関するワークショップやセミナーの開催を計画する。

超臨場感コミュニケーション産学官フォーラム

URCF (Ultra-Realistic Communications Forum)

～ 人の心に快適・感動・活力を生み出す感性の創発技術～



フォーラム活動



XR遠隔コミュニケーションWG

リーダー： 今井 弘二（情報通信研究機構）

概要： Beyond 5G時代を見据えて、遠隔でもリアルな体験を共有できる多様なXR技術・プラットフォームに関する技術的/社会的課題をユーザサイドから検討と議論を実施

XR社会活用WG

リーダー： 町田 聡（URCFアドバイザー委員）

概要： プロジェクションマッピング、AR、VRなど実空間にサイバー情報を融合するサイバーフィジカルに関連する最新情報を共有

アフェクティブメディアWG

リーダー： 鳴海 拓志（東京大学）

概要： 人の価値判断の根底にある感性・情動を分析し、人の心に快適・感動・活力を生み出す感性創発技術を検討

クロスモーダルデザインWG

リーダー： 小泉 直也（電気通信大学）

概要： クロスモーダルな感覚情報提示手法について、その可能性や適用限界、評価方法、利用法、デザイン等について議論・体系化

実世界コンテンツWG

リーダー： 谷川 智洋（東京大学）

概要： 臨場感体験や追体験を実現するVR/AR技術を公共空間、日常世界へと展開し、日常生活や地域に結びついた実世界コンテンツを実現

情動環境WG

リーダー： 安田 啓紀（日建設計）

概要： 人々の様々な生活領域にどのような変化が起こるのかを考え、ユーザーの行動と技術とを結び付け新たな社会づくりに貢献

先端映像評価WG

リーダー： 久武 雄三（静岡大学）

概要： 頭部追従型HMD映像やドーム型全天映像の没入型映像が人に与える影響（正負の効果）等に関する定量的評価について議論

超臨場感映像WG

リーダー： 山本 健詞（徳島大学）

概要： 立体映像だけではなく臨場感ある映像すべてを対象とし、セミナーの開催を中心に活動

超臨場感音響WG

リーダー： 亀川 徹（東京藝術大学）

概要： 超臨場感音響技術に関する最新動向を会員に提供するためのセミナーやデモセッション実施に向けて検討

超臨場感/ICT超高齢社会活用WG

リーダー： 檜山 敦（一橋大学）

概要： 超臨場感技術/ICTを活用した超高齢社会におけるWell-beingに対する技術的アプローチを議論

2024 年度 収支計画書

2024 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日まで

収入		支出	
勘定科目	計画	勘定項目	計画
会費等収入	3,700,000	会議費	1,060,000
正会員	3,700,000	会議費	60,000
		会場費	1,000,000
その他収入（出展料、懇親 会参加費、利息等）	10,100	謝金	280,000
		講演料	250,000
		交通費	30,000
		展示会	0
		VME	0
		展示作業委託費	0
		懇親会費	250,000
			250,000
		印刷製本費	0
		HP 制作費（残金）	0
		パンフレット	0
		通信費	145,000
		送料	10,000
		サーバー関連	100,000
		オンライン運用費	35,000
		事務局費	1,950,000
		事務委託費	1,925,000
		コピー代	20,000
		交通費	5,000
		その他	65,000
		アルバイト代	50,000
		備品類	10,000
		3DSA	0
		振込手数料	5,000
		予備費（雑費）	6,941,471
		WG 活動強化	2,000,000
		将来運用資金積立、等	4,941,471
当期収入合計(A)	3,800,100	当期支出合計(C)	10,691,471
前期繰越額	6,891,371	当期収支差額(A - C)	-6,891,371
収入合計(B)	10,691,471	次期繰越収支差額(B - C)	0

収入			
勘定科目	2023 年度実績	2024 年度計画	増減
会費等収入 正会員	0 0	3,700,000 0	3,700,000
その他収入（出展料、懇 親会参加費、利息等）	96,586	100,100	3,514
当期収入(A)	96,586	3,800,100	3,703,514
前期繰越	10,771,411	6,891,371	-3,880,040
当期収入合計(B)	10,867,997	10,691,471	-176,526

支出			
勘定科目	2023 年度実績	2024 年度計画	増減
会議費	1,006,211	1,060,000	53,789
会議費	52,504	60,000	
会場費	953,707	1,000,000	
謝金	230,000	280,000	50,000
講演料	230,000	250,000	
交通費	0	30,000	
展示会	0	0	0
VME 出展料	0	0	
VME その他	0	0	
懇親会費	244,000 0	250,000 0	6,000
印刷製本費	0	0	0
HP サイトリニューアル パンフレット	0 0	0 0	
通信費	133,681	145,000	11,319
送料	7,678	10,000	
サーバー関連	92,123	100,000	
オンライン運用費	33,880	35,000	
事務局費	1,944,704	1,950,000	5,296
事務委託費	1,925,000	1,925,000	
コピー代	16,776	20,000	
交通費	2,928	5,000	
その他	418,030	65,000	-353,030
アルバイト代	49,240	50,000	
備品類	360	10,000	
3DSA	357,230	0	
振込手数料	6,200	5,000	
その他（供花など）	5,000	0	
予備費（雑費）	0	6,941,471	6,941,471
WG 活動強化		2,000,000	
将来運用資金積立、等		4,941,471	
当期支出合計(C)	3,976,626	10,691,471	6,714,845
当期収支差額(A - C)	-3,880,040	-6,891,311	-3,011,331
次期繰越収支差額(B - C)	6,891,371	0	-6,891,371